



大津町議会令和5年第3回定例会

山部良二議員が「スポーツの森駅」の新設を再提案

3月14日に開かれた大津町議会令和5年第3回定例会で、JR九州労組議員団会議幹事の山部良二議員が一般質問に立ち、昨年3月の令和4年第2回定例会に続き、熊本空港アクセス鉄道の分岐駅として、「スポーツの森駅」の新設を提案した。

前回の質問では、金田英樹町長が、2021年度に実施した調査で、新駅の1日の利用者数が330人と推計されたことを受けて、「近年の請願駅の状況を見ると、利用者数1,000人が一つの目安となっており、現在の予測では、仮に町が建設費を全額拠出したとしても、JR九州との具体的な協議には至らない状況」として、現状では設置が難しいとの認識を示していた。

今回、山部議員は、現状に理解を示しつつも、6,880人の町民から駅の新設を求める署名が集まったことや、金田町長のマニフェスト「新しい大津町をつくる101の具体策」でも『スポーツの森駅の新設』と周辺エリアの整備・活性化」が掲げられていることを理由に、「町長に期待した多くの町民の夢であり、町長の公約でもあることから、決して疎かにできる問題ではない」と指摘。1月に、サッカーJ2ロアッソ熊本の運営会社が、将来の新スタジアム建設で熊本市以外の自治体も想定し、準備を進めていることが明らかになったことを踏まえ、町として誘致すべきと主張した。そして、「新スタジアム建設が誘致できれば、町南部の開発区域へのアウトレットモール等の誘致にも繋がり、ひいては、『スポーツの森駅』の新設に対するJR九州の態度も変化するのではないか」と述べ、金田町長の見解を質した。



スポーツの森駅の重要性を示しつつも、周辺開発を先行していく考えを示す

金田町長は、熊本空港アクセス鉄道について、昨年11月に肥後大津駅から分岐するルートで熊本県とJR九州が合意したことを報告し、「肥後大津駅～熊本空港間のルートについては、最終的には県とJR九州で協議することになっている」と説明。仮に、スポーツの森方面を通過するルートが採用されれば、新駅の構想にも大きな影響があることから、協議経過を注視しつつ、引き続き、県とJRに対して、町の魅力を発信していく考えを示した。また、昨年5月にJR九州を訪問し、古宮洋二社長に対して、町の現状説明と「スポーツの森駅」の新設及び周辺の開発計画に係る調査結果を報告したことや、県幹部にも、町の開発計画に関する資料の提供や協議を進めながら、積極的に連携を図っていることを明らかにした。その上で、「今後も最新の動向をキャッチし、熊本空港アクセス鉄道の事業採択に向けた取り組みに、町としても迅速かつ的確に協力できるよう、体制を整えながら進めていく」と答えた。そして、「スポーツの森駅」は、「熊本空港アクセス鉄道の分岐駅になるのか、豊肥本線の間駅になるのかは別にして、町の発展には重要」と述べる一方、2021年度の調査結果を踏まえ、まずは、スポーツの森周辺の開発を先行していく考えを示した。